# さんけん新聞

発　行
NPO法人
三段峡―太田川
流域研究会
（代表・本宮炎）

〒731－3813
広島県山県郡
安芸太田町
柴木1734
090-3421-3046
◇
https://sanken-hiroshima.org/


## 未来につなぐふるさと基金事業

「草原であそぼう!!昆虫の採り方講座」が7月14日、広島市内の親子連れを中心に30人が参加して、深入山で開かれた。公益財団法人パブリックリソース財団の「未来につなぐふるさと基金」の助成事業。

深入山の草原でチョウを追う子供達

# チョウを捕獲調査

## 深入山 親子連れ30人が参加

講座の目的は深入山の希少チョウ類保全活動の啓発。講師を務めたさんけん会員であり、西中国山地自然史研究会の上手新一さんと上野吉雄さんの二人は、貴重な草原環境の大切さを伝えた。

◇　◇

**未来につなぐふるさと基金**　キャノンマーケティングジャパンとパブリックリソース財団が二〇一三年に立ち上げた助成事業。生物多様性に関する市民参加型プログラムを実施する団体を支援する。今年度は二十三団体の中から五団体が選ばれた。助成金は五十万円。

参加者は昆虫を捕まえる仕掛けづくりを学び、砂糖や焼酎を混ぜたエサを樹木や地面に仕掛けた。チョウの捕獲調査体験では、ゴマシジミ保護区域の横でチョウを追い、捕獲した種名を調べ、ゴマシジミの生態を聴いた。

この日の調査では絶滅危惧種のヒメヒカゲが一六頭捕獲された。上野さんは「昨年は見られなかった。山焼きの効果かも知れない」と、喜んだ。参加した小学三年生は「夏休みにはゴマシジミの調査に参加したい」と楽しみにしていた。

同事業は三回実施、次回は九月一日に写真教室を開く。

## 90年前の写真データ譲り受ける

# 鮮明な画像　蘇る三段峡

一九三〇年代に芸北地域の風景や行事、人物などを撮影した野田富士仁氏のガラス乾板写真をデジタル保存している、北広島町川小田の紺野昇さんを七月十二日、さんけん会員五人が訪ねた。

二〇〇三年に刊行された「芸北　カメラが語る昭和初期」に収録された写真とは別に、新たに約五百枚が見つかったと聞き、今回の訪問になった。

黒淵の拡大写真を見るさんけん会員

写真は驚くほど鮮明で、小さな文字が貴重な情報になる。三段峡の写真は高下務さんが当時の様子を生き生きと解説した。

紺野さんは「三段峡の写真は多くあったが、場所や状況が分からず掲載を見送った。もっといい本になったのに」と悔しがった。データはすべて譲り受けた。場所の確定、状況分析、整理が急がれる。

## オオサンショウウオ本格調査

# 8匹の個体記録　チップ挿入

日本ハンザキ研究所の岡田純理事長を迎えて七月二十九日から三日間、長淵と水梨口でオオサンショウウオを調査した。長淵では体長七十㌢を含め捕獲し、八匹の個体を記録、マイクロチップを体内へ挿入した。水梨口では確認できなかった。

これまで目撃情報はあったが、本格的な調査は今回が初めて。岡田理事長は「三段峡の川は法律で保護された貴重な生息地。次回は潜水調査をしてみよう」と話す。

調査はアウトドア企業・パタゴニアの環境助成金プログラムで、来年八月まで実施する。九月には同社広島店内で三段峡の自然と今回の調査の様子を展示する。

## 一口メモ

### ▼清流に触れ…

お盆のころになると長淵の河原は、涼を求める人達で賑やかになる。自然の川で遊ぶ機会が減っている昨今、三段峡は貴重な場所だと言える。

清流に触れるだけでなく、淵を覗いたり、石をめくったりすると、様々な生き物に出会える。環境を考えるきっかけにもなる。

## 上殿小

# サマーキャンプで植物標本づくり

安芸太田町の上殿小学校みりょくアップ会が七月二十八日、サマーキャンプで植物標本作成教室を開いた。さんけん会員の佐久間智子さんが採取や乾燥方法を指導。同会の今田精治さんは「地域の自然に親しみ、夏休みの宿題になる」と喜んでいた。

# 広島の志屋小児童　太田川流域を学ぶ

広島市立志屋小学校の児童十五人が七月三日、三段峡でアマゴのつかみ取りやカナクソ探しを体験し、太田川流域のつながりや川が流通経路だった歴史を学んだ。

広島市環境局からさんけんが受託した太田川流域振興交流会議学校間交流事業。

## 南峰と歩く ㉔　竜門（りゅうもん）

# ダムが迫力奪うも　五大観に恥じぬ

三段峡最奥部の「三ツ滝」から八幡川を五分ほど下ると竜門がある。滝が落ちて、斜めに鋭く切り立った岸壁の隙間を水流が奔（はし）る奇勝である。

峡内の特に優れた景観として猿飛、二段滝、三段滝、三ツ滝と並び五大観（五大壮観）と呼ばれていた。それが今、竜門は外れている。

■国府犀東の命名か

五大観は一九二三年、国府犀東博士一行が名勝指定調査をした際に「新たに命名された」と、当時の新聞にある。命名者の記載はないが、漫画「峡友」などでは三段峡名と同様、熊南峰が考案して博士にお墨付きをもらったとしている。

竜門は「登竜門」と言う言葉の由来で知られる黄河中流域の竜門の見立てである。それまではハンガイ淵と呼ばれていたが、五大観の名称に相応しくないと考えた南峰が、博士に命名を求めたのが実際だろう。

■黒淵にその座譲る

探勝路から見えづらく、通過する人がほとんどである。樽床ダムの影響で水量が減り、迫力は失われたが、鮮やかな節理や林層が織りなす美しさは、五大観の名に恥じないと信じる。七〇年代以降のパンフレットでは黒淵に代わった。黒淵は峡内を代表する景観だが、「五大観」と表現する場合は、誤りであると指摘せざるを得ない。

（松尾　俊孝）

## 参加者募集

**☆本宮理事長と三段峡を歩く会**

■8月25日（日）13:30～17:00
■三段峡正面口交流館前　集合
■参加費500円（保険代）
■タオル、飲み物、おやつ、着替え、長袖・長ズボンがベスト、帽子

**☆秋の七草観察＆撮影教室**

■9月1日（日）10:00～15:30
■深入山／いこいの村研修室
■佐久間智子さんが秋の草花を解説
キャノン社員が撮影指導（無料レンタルカメラ有）
■参加費500円（保険代）、弁当持参

**問い合わせ　本宮（090-3421-3046）**